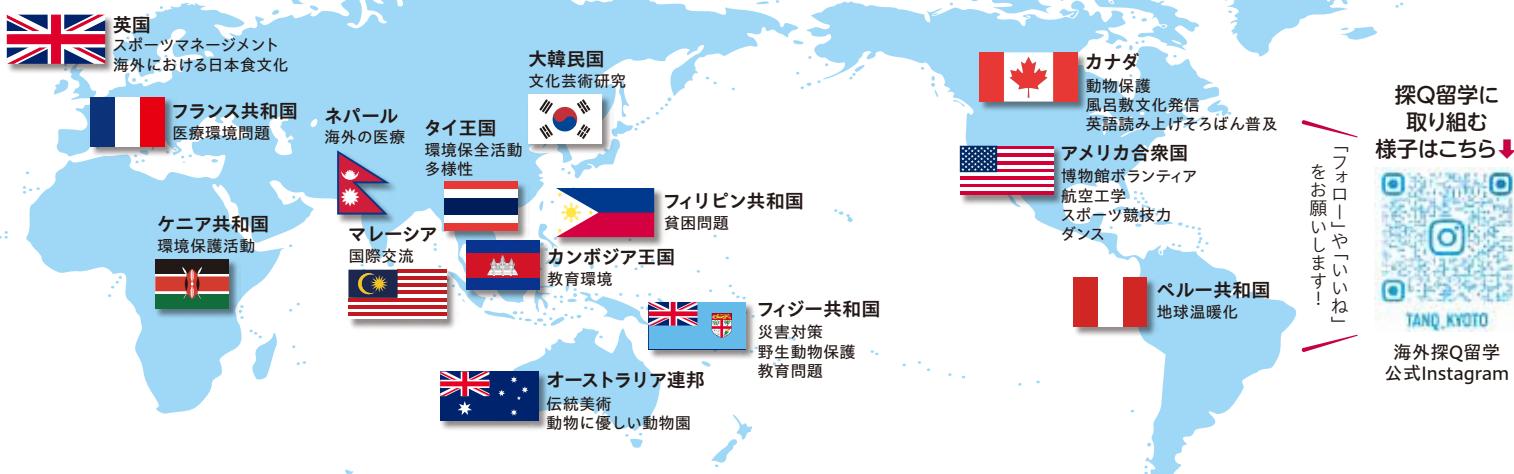


きょうとふの教育

府立高校から世界へ飛び立とう! 海外探Q留学

「問い合わせ」の答えを求めて海外へ!
高校生の海外での挑戦を応援する取組を紹介します。

令和6~7年度の探究内容



探Q留学に取り組む様子はこちら↓



府立菟道高校 3年生

留学先

ネパール

21日間(8/3-8/23)

テーマ

ネパールの病院視察や大学の講義への参加を通じて、海外の医療の現状を知り、国際的な医療レベルの向上に貢献できるアドバイザーになるため、海外の医療について探究する。



病院を訪問し、医師や看護師、患者の方にたくさん話しかけ、意見を聞き、ネパールの医療制度や医療技術、医療に関する問題について学ぶことができました。

初めての海外で、行く前は、英会話に不安がありました。でも、医科大学での講義中、最低2回は質問するなど、積極的に英語を使ってみると、少しづつ通じるようになり、意思疎通もスムーズに行うことができました。

この留学を通じて、高いレベルの医療を世界に広げるために貢献したいという気持ちがさらに高まりました。



留学前の研修会で留学計画を交流



飛行機とバスを乗り継ぎ現地到着



文化の違いを実感
おいしく完食



他国からの留学生と共に医療技術実習に参加



医療関係者と積極的にコミュニケーション



現地の小学校で衛生指導

さらに多くの高校生が“世界”へ飛び立てるよう
今後ますます充実していきます!

探Q留学の
詳細はこちらを
ご確認ください。→



みんなの声が社会を動かす

シリーズ人権

1925(大正14)年、日本で選挙法が改正され、25歳以上のすべての男子に選挙権が与えられました。

それまで限られた人だけが政治に参加できた時代から、国民の声が政治に届く社会への大きな一步でしたが、女性や若者の選挙権が認められるまでには時間がかかりました。

1925年の改正から100年を迎える今、私たちは「すべての人が自分らしく生き、参画することができる社会」を目指すとの意味を改めて考える必要があります。

意見を伝える、友だちや周りの人の声に耳を傾ける、違いを認める——その一つ一つの行動が社会を動かす力となります。みなさんのもっている力でよりよい社会と幸福な人生・未来を創り出していくましょう。

いのちを守る防災教育

自然災害が激甚化・頻発化する中、子どもたち一人ひとりが災害によるリスクを知り、「もしも」に備えていくことが大切です。避難場所の確認や非常用持ち出し袋の準備など、できることから始めてみませんか?



自分のいのちを 自分で守る 意識から行動へ

自分のいのちを守り、
地域とともに 「助け合う力」 を育む

■京丹波町立下山小学校【親子防災学習】

テーマ 「今、災害が起こったら、どうする!?」

地域の企業と連携し、防災士を派遣してもらい、「防災食」や「災害時に自分にできること」、「親子で考え、地域とつながること」を学びました。日頃からの防災に対する備えを大切に、取組を進めています。



▲防災士による「○×クイズ」

■京都府立宇治支援学校【うじ防災WEEK】



▲地震体験VR

知的障害や肢体不自由のある児童生徒が災害時に自分で自分の身を守る力を養い、全校で一丸となって防災体制を整えることを目的に、体験型防災週間「うじ防災WEEK」として、防災教育を推進しています。

多様な体験的な学習を繰り返すことで小学部低学年では、避難訓練でも自ら速やかに机の下に身を隠したり、高等部では学んだ内容を自分たちの学校環境へ応用したりする力を育んでいます。



▲机の下に隠れる訓練



大規模な災害が発生した場合、避難場所を確保することや、学校が早期に再開できることは大切なことです。

京都府教育委員会では、災害時における「学校教育活動の早期再開」や「児童生徒の心のケア」などを支援する体制として、**京都府災害時学校支援チーム(D-EST京都)**を今年度新たに創設しました。

●D-EST京都 活動内容

大規模災害発生時	平時
・教育活動の早期再開 ・児童生徒・教職員の心のケア など	・所属校における防災対策や防災教育の推進 ・地域や関係機関との連携 など



●チーム員の養成

非常時に備え、被災経験のある地域の教員と協力して教材づくりをしたり、子どもたちに寄り添い、心のケアをする時に必要な知識や技能を習得できるよう、年3回の研修を実施しています。

各教育局の取組を紹介します!

「つながる学び」で地域の未来を育む

~6次産業化(※)体験学習を実施(校種間連携パートナースクール事業)~

(※)「6次産業化」… 農林水産物の生産(1次)、加工(2次)、流通・販売(3次)を一体化し、地域資源を活用して新たな付加価値を生み出す産業形態。



南丹教育局では、中学校と高校が連携し、地域の資源を活かした学びを通じて、未来の「京都丹波」を担う人づくりを進めています。

「環境・食育パートナースクール事業」では、府立須知高校食品科学科の3年生と、京丹波町の瑞穂中学校・和知中学校の1年生が、「6次産業化から地域の未来を考える」をテーマに体験学習を実施しました。高校で育てた食材を使い、加工や販売までの流れを学ぶ中で、中学生は将来への関心を広げ、高校生は学びへの自信と誇りを感じることができました。校種を越えてつながる学びは、子どもたちが地域の魅力を再発見し、持続可能な未来を考える貴重な機会となっています。



お茶でつながる国際交流 ~国際茶会~

~綾部市立豊里小学校でマリ共和国の方々と交流~

大阪・関西万博に合わせて開催された「きょうとまるごとお茶の博覧会」の一環で中丹教育局管内の綾部市立豊里小学校の6年生児童とマリ共和国の皆さんと、国際茶会としてお茶を通して交流しました。

豊里小学校のある地域はお茶の生産が盛んであり、児童は日頃から総合的な学習の時間でお茶について学びを深めています。

当日は、マリ共和国の方々を煎茶道でおもてなしをした後、グループで交流を行いました。児童にとっては、自国の文化を学ぶとともに、他の文化も学ぶ大変良い機会となりました。グローバルな視野をもち、国際社会で活躍できるためのきっかけとなる取組を今後も推進します。



アクセスはこちら▶



